

特別企画： 京都府内企業のメインバンク実態調査（2020 年）**調査開始以来、11 年連続で京都銀行が首位
～「建設」「不動産」は京都中央信金が首位～****はじめに**

日本銀行のマイナス金利政策による超低金利の長期化が響き、金融機関にとって厳しい経営環境が続いている。上場地銀 103 行の 2019 年 9 月期中間決算（単体）では、6 割超の 66 行が減益、5 行が赤字となった。そのため、各金融機関では店舗統廃合や人員削減を積極的に推し進めたコスト圧縮や、フィンテックなど IT 化の推進、活動基盤の拡大に伴う越境融資など、生き残りに向けた施策を続けている。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大という想定外の事態に直面するなか、融資先企業の業績悪化などから与信費用が増加するなど逆風が吹いている。

折しも、菅義偉首相が「地銀は多すぎる」と発言するなど、金融機関の再編圧力は再び高まっている。近畿では 2020 年 1 月に大阪の第二地銀である大正銀行と徳島銀行が合併し、徳島大正銀行が誕生。地銀再編が進むなか、収益力向上とともに、地元での存在感、広域化、コンサルティング機能向上など生き残りのために独自色を打ち出した施策が求められている。

帝国データバンク京都支店では、2020 年 12 月末時点の企業概要ファイル「COSMOS2」に収録されている京都府下企業（29,011 社）がメインバンクと認識している金融機関について抽出し、集計・分析した。

なお、調査対象は全業種全法人で、個人経営も含む。同調査は 2019 年 12 月に続き 11 回目。

※ 本調査は、「COSMOS2」に収録されている企業のデータであるため、各金融機関がメインとして取引している実数とは異なる。また、一企業に複数のメインがあるケースでは、各企業が最上位として認識している金融機関をメインバンクとして集計した。

調査結果（要旨）

1. 府内トップは、調査開始以来 11 年連続「京都銀行」。ついで「京都中央信金」「京都信金」が続き、上位 3 金融機関で全体の 7 割強を占めた。
2. 地域別でみると、京都市内は前回調査で初めてトップに立った「京都銀行」が引き続きトップとなり、府北部（中丹、丹後）では「京都北都信金」がトップとなった。
3. 業種別では、7 業種すべてで上位 3 位を「京都銀行」「京都中央信金」「京都信金」が占めた。5 業種で「京都銀行」、「建設」「不動産」は「京都中央信金」がトップとなった。

1. 府内ランキングトップは調査開始以来 11 年連続で京都銀行

企業がメインバンクとして認識している金融機関の京都府内トップは、府内唯一の地銀で「飾らない銀行」を企業キャッチフレーズに積極的な新規出店を続ける「京都銀行」。同行をメインバンクとする企業数は9,488社（前回9,579社）となり、全体（29,011社）の32.7%（前回32.2%）を占め、調査開始以来11年連続でトップ。2位は信用金庫として預金量・貸金量とも全国でトップクラスにランクされる「京都中央信金」の7,404社（同7,432社）で、構成比25.5%（同25.0%）となった。3位には「京都信金」の4,120社（同4,123社）で、構成比14.2%（同13.9%）。規模的には京都銀行、京都中央信金に次いで第3位ながら、2行庫よりも業歴は長い。上位3行庫は調査開始以来変わらず、構成比は72.4%と前回調査の71.1%に比べ1.3ポイント上昇、上位3行庫のシェアがさらに高まった。

4位は「京都北都信金」の2,013社（同2,004社）、構成比6.9%（同6.7%）。府北部と、亀岡市など中部をカバーし、確固たる基盤を有し、社数、構成比ともに前回は上回った。5位「三菱UFJ銀行」、6位「三井住友銀行」、7位「滋賀銀行」、8位「みずほ銀行」、9位「南都銀行」、10位は「りそな銀行」となった。前回とトップ10の顔ぶれに変動はなかった。11位以下でも、但馬銀行が商工中金と入れ替わった以外は順位に変動はない。

京都府メインバンク社数 上位20行

順位		金融機関名	2019年(前回)			2020年(今回)		
			社数	構成比(%)	構成比増減	社数	構成比(%)	構成比増減
1	(1)	京都	9,579	32.2%	▲0.1	9,488	32.7%	0.5
2	(2)	京都中央信金	7,432	25.0%	▲0.1	7,404	25.5%	0.5
3	(3)	京都信金	4,123	13.9%	0.2	4,120	14.2%	0.3
4	(4)	京都北都信金	2,004	6.7%	▲0.1	2,013	6.9%	0.2
5	(5)	三菱UFJ	1,469	4.9%	▲0.1	1,448	5.0%	0.1
6	(6)	三井住友	885	3.0%	0.0	871	3.0%	0.0
7	(7)	滋賀	785	2.6%	0.0	791	2.7%	0.1
8	(8)	みずほ	757	2.5%	▲0.1	739	2.5%	0.0
9	(9)	南都	628	2.1%	0.0	616	2.1%	0.0
10	(10)	りそな	420	1.4%	0.0	416	1.4%	0.0
11	(11)	関西みらい	312	1.0%	0.9	295	1.0%	0.0
12	(12)	ゆうちょ	98	0.3%	0.0	90	0.3%	0.0
13	(13)	京滋信組	65	0.2%	0.0	64	0.2%	0.0
14	(14)	京都農協	57	0.2%	0.0	55	0.2%	0.0
14	(16)	但馬	54	0.2%	0.0	55	0.2%	0.0
16	(15)	商工中金	56	0.2%	0.0	53	0.2%	0.0
17	(17)	福邦	46	0.2%	0.0	45	0.2%	0.0
18	(18)	中兵庫信金	45	0.2%	0.0	42	0.1%	▲0.1
19	(19)	近畿産業信組	40	0.1%	0.0	40	0.1%	0.0
20	(20)	北陸	30	0.1%	0.0	26	0.1%	0.0

※()内は前年順位

※網掛けは順位の変動を表す

2. 地域別ランキング

地域別では京都府を京都市、山城、乙訓、南丹、中丹、丹後の6つの地域に分けた。

【京都市】

京都市に本社を置く企業のメインバンクを見ると、1位は「京都銀行」の5,584社(前回5,642社)、構成比30.1%(同29.6%)で、地域別では前回調査に続き1位となった。2位の「京都中央信金」は5,563社(同5,639社)、構成比30.0%(同29.6%)となった。2行庫の差は21社と前回調査時の3社から拡大した。

トップ10の顔ぶれ、順位に変動はなかった。

京都市メインバンク社数 上位10行

順位	金融機関名	社数	構成比
1 (1)	京都	5,584	30.1%
2 (2)	京都中央信金	5,563	30.0%
3 (3)	京都信金	3,039	16.4%
4 (4)	三菱UFJ	1,239	6.7%
5 (5)	三井住友	731	3.9%
6 (6)	滋賀	715	3.9%
7 (7)	みずほ	658	3.5%
8 (8)	りそな	351	1.9%
9 (9)	関西みらい	243	1.3%
10 (10)	ゆうちょ	67	0.4%

※()内は前年順位

【山城】

府南部の山城地域では、1位は「京都銀行」の1,720社(前回1,745社)、構成比35.7%(同35.4%)で、前回と比較し、社数は減少したものの、構成比は増加した。

2位は「京都中央信金」で、1,412社(同1,386社)、構成比29.3%(同28.1%)で、社数、構成比ともに増加した。

3位は奈良県に本店を置く「南都銀行」となり、隣接エリアへ進出していることがうかがえる。

トップ10の顔ぶれ、順位に変動はなかった。

山城地区メインバンク社数 上位10行

順位	金融機関名	社数	構成比
1 (1)	京都	1,720	35.7%
2 (2)	京都中央信金	1,412	29.3%
3 (3)	南都	590	12.2%
4 (4)	京都信金	548	11.4%
5 (5)	三菱UFJ	138	2.9%
6 (6)	三井住友	106	2.2%
7 (7)	滋賀	62	1.3%
8 (8)	みずほ	51	1.1%
9 (9)	関西みらい	45	0.9%
10 (10)	りそな	35	0.7%

※()内は前年順位

【乙訓】

乙訓地区では、前回とトップ5の顔ぶれおよび順位に変動はなく、1位は「京都銀行」で、349社(前回344社)、構成比36.3%(同34.2%)。2位は「京都中央信金」で、317社(同315社)、構成比33.0%(同31.3%)となった。

トップ5の顔ぶれ、順位に変動はなかった。

乙訓地区メインバンク社数 上位5行

順位	金融機関名	社数	構成比
1 (1)	京都	349	36.3%
2 (2)	京都中央信金	317	33.0%
3 (3)	京都信金	168	17.5%
4 (4)	三菱UFJ	44	4.6%
5 (5)	みずほ	20	2.1%

※()内は前年順位

【南丹】

南丹地区では、1 位が「京都銀行」で 774 社 (前回 773 社)、構成比 54.2% (同 54.1%)。ついで「京都信金」が 362 社 (同 364 社)、構成比 25.4% (同 25.5%)、3 位の「京都中央信金」は 112 社 (同 108 社)、構成比 7.8% (7.6%) となった。

トップ 5 の顔ぶれ、順位に変動はなかった。

南丹地区メインバンク社数 上位5行

順位	金融機関名	社数	構成比
1 (1)	京都	774	54.2%
2 (2)	京都信金	362	25.4%
3 (3)	京都中央信金	112	7.8%
4 (4)	京都北都信金	74	5.2%
5 (5)	京都農協	30	2.1%

※ () 内は前年順位

【中丹】

中丹地区では、「京都北都信金」が 1,234 社 (前回 1,231 社)、構成比 56.2% (同 56.8%) で 1 位となった。

ついで「京都銀行」が 697 社 (同 700 社)、構成比 31.7% (同 32.3%)。さらに「中兵庫信金」「福邦銀行」「但馬銀行」と、隣接する近隣県に本店を持つ金融機関の進出が見て取れる。トップ 5 の顔ぶれ、順位に変動はなかった。

中丹地区メインバンク社数 上位5行

順位	金融機関名	社数	構成比
1 (1)	京都北都信金	1,234	56.2%
2 (2)	京都	697	31.7%
3 (3)	中兵庫信金	41	1.9%
4 (4)	福邦	40	1.8%
5 (5)	但馬	30	1.4%

※ () 内は前年順位

【丹後】

京都府最北端の丹後地区では、当地に本店を置く「京都北都信金」が 701 社 (前回 695 社)、構成比 63.2% (同 62.4%) となった。ついで「京都銀行」が 364 社 (同 375 社)、構成比 32.8% (同 33.7%)。この 2 金融機関で 96.0% (同 96.1%) を占めている。

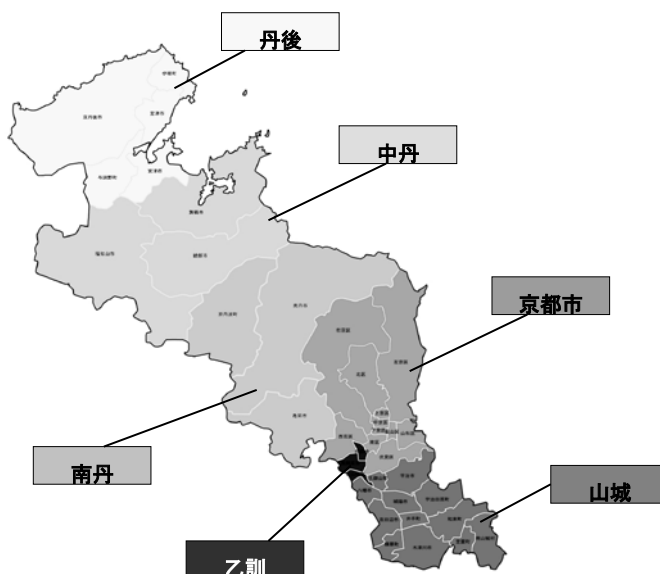
トップ 3 の顔ぶれ、順位に変動はなかった。

丹後地区メインバンク社数 上位3行

順位	金融機関名	社数	構成比
1 (1)	京都北都信金	701	63.2%
2 (2)	京都	364	32.8%
3 (3)	京都農協	18	1.6%

※ () 内は前年順位

※「山城」は宇治市以南、「乙訓」は向日市、長岡京市、乙訓郡、「南丹」は亀岡市、南丹市、船井郡、「中丹」は福知山市、舞鶴市、綾部市、「丹後」は京丹後市、宮津市、与謝郡で分類した。



3. 業種別ランキング

【建設業】

建設業のメインバンクを見ると、1位は「京都中央信金」で社数 2,829 社（前回 2,821 社）、構成比 32.1%（同 31.6%）となった。

2位の「京都銀行」は、社数 2,817 社（前回 2,816 社）、構成比 32.0%（同 31.6%）となった。

トップ 10 の顔ぶれ、順位に変動はなかった。

「京都中央信金」は前回調査から「京都銀行」を抜いて 1 位となり、2 行庫の差は前回調査の 5 社から 12 社に拡大した。

建設業メインバンク社数 上位10行

順位	金融機関名	社数	構成比
1 (1)	京都中央信金	2,829	32.1%
2 (2)	京都	2,817	32.0%
3 (3)	京都信金	1,124	12.7%
4 (4)	京都北都信金	901	10.2%
5 (5)	南都	265	3.0%
6 (6)	滋賀	177	2.0%
7 (7)	三菱UFJ	169	1.9%
8 (8)	関西みらい	109	1.2%
9 (9)	三井住友	103	1.2%
10 (10)	みずほ	72	0.8%

※()内は前年順位

【製造業】

製造業では、1位は「京都銀行」で社数 1,440 社（前回 1,457 社）、構成比 35.4%（同 35.3%）と社数は減少したものの首位を堅持した。

2位の「京都中央信金」が社数 816 社（前回 844 社）、構成比 20.1%（同 20.5%）と社数、構成比ともに減少した。

トップ 10 の顔ぶれ、順位に変動はなかった。

製造業メインバンク社数 上位10行

順位	金融機関名	社数	構成比
1 (1)	京都	1,440	35.4%
2 (2)	京都中央信金	816	20.1%
3 (3)	京都信金	738	18.2%
4 (4)	三菱UFJ	272	6.7%
5 (5)	京都北都信金	156	3.8%
6 (6)	みずほ	142	3.5%
7 (7)	三井住友	138	3.4%
8 (8)	滋賀	131	3.2%
9 (9)	南都	72	1.8%
10 (10)	りそな	71	1.7%

※()内は前年順位

【卸売業】

1位は「京都銀行」で社数 1,295 社（前回 1,323 社）、構成比 33.1%（同 33.2%）となった。

2位は「京都中央信金」が社数 843 社（同 848 社）、構成比 21.5%（同 21.3%）、3位の「京都信金」が社数 564 社（前回 568 社）、構成比 14.4%（同 14.2%）となり、3 社ともに社数が減少した。

トップ 10 の顔ぶれ、順位に変動はなかった。

卸売業メインバンク社数 上位10行

順位	金融機関名	社数	構成比
1 (1)	京都	1,295	33.1%
2 (2)	京都中央信金	843	21.5%
3 (3)	京都信金	564	14.4%
4 (4)	三菱UFJ	310	7.9%
5 (5)	みずほ	196	5.0%
6 (6)	三井住友	163	4.2%
7 (7)	滋賀	159	4.1%
8 (8)	京都北都信金	139	3.5%
9 (9)	りそな	85	2.2%
10 (10)	南都	64	1.6%

※()内は前年順位

【小売業】

1位の「京都銀行」は社数 1,006 社（前回 1,030 社）、構成比 30.8%（同 31.0%）と首位を堅持した。2位の「京都中央信金」は社数 757 社（同 760 社）、構成比 23.2%（同 22.8%）となった。

トップ 10 の顔ぶれ、順位に変動はなかった。

小売業メインバンク社数 上位10行

順位	金融機関名	社数	構成比
1 (1)	京都	1,006	30.8%
2 (2)	京都中央信金	757	23.2%
3 (3)	京都信金	576	17.6%
4 (4)	京都北都信金	333	10.2%
5 (5)	三菱UFJ	142	4.3%
6 (6)	三井住友	97	3.0%
7 (7)	みずほ	78	2.4%
8 (8)	滋賀	71	2.2%
9 (9)	南都	62	1.9%
10 (10)	りそな	42	1.3%

※()内は前年順位

【不動産業】

不動産業では、「京都中央信金」が社数 756 社（前回 750 社）、構成比 34.6%（同 33.5%）で 1 位となった。社数、構成比ともに増加した。2位の「京都銀行」との差は社数 195 社（前回 184 社）、構成比 8.9 ポイント（同 8.2 ポイント）と前回よりも拡大した。

9 位の「関西みらい」は、建設に続きランクインしており、建設・不動産関連での進出がうかがえる。

トップ 10 の顔ぶれ、順位に変動はなかった。

不動産業メインバンク社数 上位10行

順位	金融機関名	社数	構成比
1 (1)	京都中央信金	756	34.6%
2 (2)	京都	561	25.7%
3 (3)	京都信金	256	11.7%
4 (4)	三菱UFJ	112	5.1%
5 (5)	三井住友	89	4.1%
6 (6)	滋賀	73	3.3%
7 (7)	京都北都信金	69	3.2%
8 (8)	みずほ	62	2.8%
9 (9)	関西みらい	56	2.6%
10 (10)	りそな	50	2.3%

※()内は前年順位

【運輸・通信業】

運輸・通信業では、1位は「京都銀行」で、社数 247 社（前回 246 社）、構成比 32.2%（同 32.4%）となり、社数・構成比ともに増加した。2位の「京都中央信金」は、社数 192 社（前回 196 社）、構成比 25.0%（同 25.8%）となった。

トップ 10 の顔ぶれ、順位に変動はなかった。

運輸・通信業メインバンク社数 上位10行

順位	金融機関名	社数	構成比
1 (1)	京都	247	32.2%
2 (2)	京都中央信金	192	25.0%
3 (3)	京都信金	117	15.3%
4 (4)	京都北都信金	48	6.3%
5 (5)	三菱UFJ	40	5.2%
6 (6)	三井住友	24	3.1%
7 (7)	滋賀	23	3.0%
8 (8)	みずほ	17	2.2%
9 (9)	南都	12	1.6%
10 (10)	商工中金	12	1.6%

※()内は前年順位

【サービス業】

サービス業においても、1位は「京都銀行」で、社数 2,053 社（前回 2,068 社）、構成比 35.8%（同 34.0%）と社数が減少した。2位の「京都中央信金」は社数 1,172 社（同 1,175 社）、構成比 20.5%（同 19.3%）となった。

トップ 10 の顔ぶれ、順位に変動はなかった。

サービス業メインバンク社数 上位10行

順位	金融機関名	社数	構成比
1 (1)	京都	2,053	35.8%
2 (2)	京都中央信金	1,172	20.5%
3 (3)	京都信金	719	12.6%
4 (4)	三菱UFJ	383	6.7%
5 (5)	京都北都信金	346	6.0%
6 (6)	三井住友	245	4.3%
7 (7)	みずほ	168	2.9%
8 (8)	滋賀	148	2.6%
9 (9)	南都	108	1.9%
10 (10)	りそな	86	1.5%

※()内は前年順位

4.まとめ

京都府においては、「京都銀行」が調査開始以来 11 年連続でトップとなった。ついで、「京都中央信金」「京都信金」となり、前回同様に 3 行庫で全体の 7 割強を占めた。中丹地区以北では、京都北都信金が中丹地区と丹後地区で高いシェアを占めたものの、業種を問わず、上位を 3 行庫で占める構図に変動はなかった。

2019 年 4 月に誕生した「関西みらい銀行」は、2021 年 4 月にりそなホールディングスの完全子会社となる。また、2020 年 1 月には「大正銀行」と「徳島銀行」が合併し「徳島大正銀行」が誕生したほか、2021 年 1 月には福井銀行が福邦銀行を子会社する方針を発表するなど、近畿および近隣エリアにおいても地方銀行の再編が着実に進んでいる。

その一方で近年は、少子高齢化による地域人口の減少や低金利政策の長期化などを背景に、メガバンクは人員削減や店舗集約を積極的に行い、地銀も店舗網の見直しを急いでいる。今後、各金融機関はこれらの生き残り戦略に加え、オンラインでの融資サービスの開始や、事業承継や創業支援などコンサルティングメニューの充実、グループ内での金融サービス連携・補完など、融資以外の金融サービスを強化することで、シェア拡大を図ることになるだろう。

【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク 京都支店 担当:野田圭祐
TEL (075) 223-5111 FAX (075) 223-5200

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。

著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。